

地域の宝、魅力を発掘

筑波学院大
牛久で講座
まちづくりの方法学ぶ

筑波学院大（つくば市吾妻、大島愼子学長）が主催する「地域デザイン学芸員講座」の第1回講座が7月



24日、牛久市牛久町のエスカード牛久で開講した。同市民ら11人が参加し、まちづくりのためのフィールドワークの方法や技術を学んだ。

同講座は観光や都市デザインといったまちづくりの分野で活躍する人材育成を目的とした社会人向けの資格講座。2017年度文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されている。来年2月上

エスカード牛久で開かれた第1回目の「地域デザイン学芸員講座」■牛久市牛久町

旬までに9講座を行い、歴史や文化、景観、人物といった地域の「宝物」を展示するミュージアムづくりを目指す。

第1回講座は「地域文化資源とデジタルコミュニケーション」と題し、地域の「宝物」を掘り起こすフィールドワークを行う。3回に分けて開講し、塚原正彦同大教授らが講師を務める。今回はフィールドワークの前準備として、地域の魅力を発掘する方法や取材の仕方、写真の撮り方を学んだ。講座に参加した、同市、内閣府職員、横田清泰さん(48)は「フィールドワークを通じ地域の宝を見つけ、地域創生につなげていきたい」と話した。(秋葉凌)